



「海域ワーキンググループ」では、知床の海の生き物、漁業やレクリエーションなどの活動に関して、科学的な視点から評価と検討を行っています。

### 令和5（2023）年度の活動内容

知床半島の海域の保全に向けて、令和5（2023）年度は会合を2回開催しました。

第1回 令和5（2023）年7月25日 斜里町

第2回 令和6（2024）年2月15日 札幌市

＜話し合われた主な内容＞

#### ○知床の海域に関する調査（モニタリング）結果について

令和4年度に実施されたモニタリングの結果について、評価を行いました。

### 近年の知床の海について

#### ①海洋環境

- ・羅臼側の観測ブイでは初めて20.0℃の水温が観測されました。流氷の接岸期間は、短くなる傾向にあります。石油や重金属といった汚染物質に関しては、基準値を大きく下回る低いレベルで安定しています。

#### ②魚介類

- ・サケ類、スルメイカの漁獲量が大きく減少する一方で、ブリの漁獲量が増加しています。

#### ③海棲哺乳類

- ・いずれの種・种群も特筆すべき増減は認められていません。

#### ④鳥類

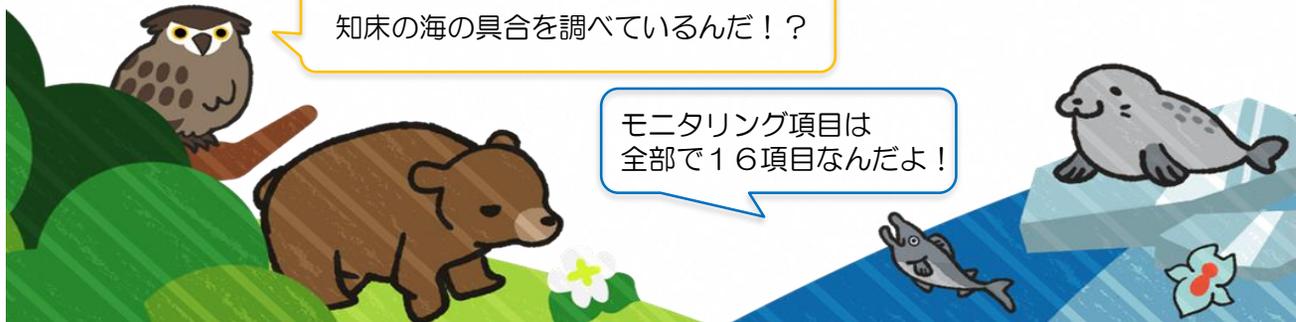
- ・ケイマフリは個体数が維持されていますが、オオセググロカモメ、ウミネコ、ウミウは遺産登録時と比べ、数が減少しています。オジロワシの繁殖数は横ばいかやや上昇傾向、また、ワシ類の越冬飛来数は横ばいでした。

#### ⑤地域社会

- ・コロナ禍の影響により2020年と2021年の世界遺産関連施設の利用者数、観光入込客数、外国人観光客・宿泊者数は大きく減少しましたが、2022年からは回復しつつあります。地域人口と就業者数については、長期的な減少傾向が継続しています。

知床の海の具合を調べているんだ！？

モニタリング項目は全部で16項目なんだよ！

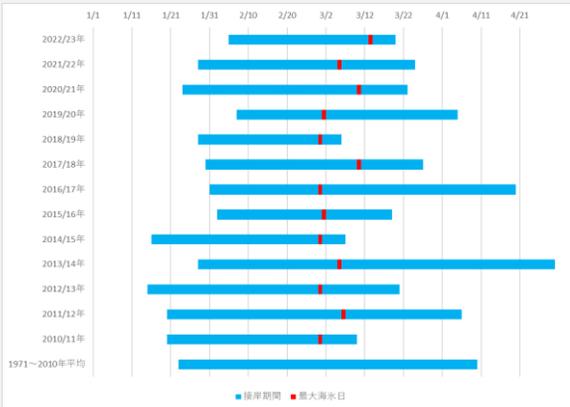


# モニタリング結果からわかること

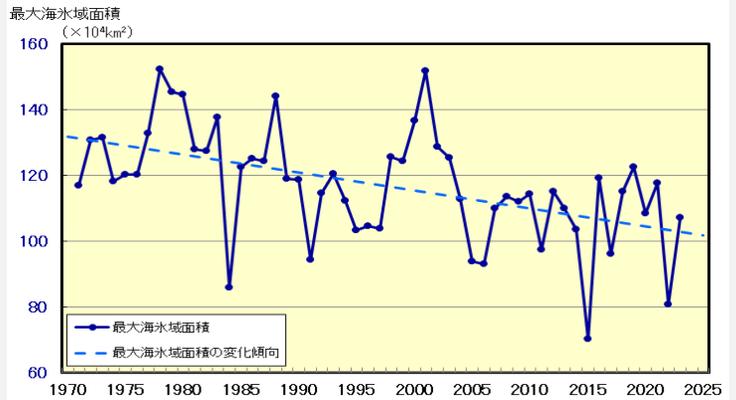
## 最大海氷域面積

オホーツク海の最大海氷域面積（1年で最も拡大した時期の海氷域面積）は、長期的に見ると減少しており、10年あたりではオホーツク海の全面積の3.5%の海氷域が消失しています。

## 流水接岸期間



データ出典：第一管区海上保安本部「海洋概報(海氷編)」  
「海水速報」



出典：気象庁ウェブサイト

## 新委員の紹介

近年の「海洋温暖化」は魚だけでなく低次生産を担うプランクトンにも影響を及ぼしています。例えば、10年ほど前は太平洋側の分布が東京湾だった赤潮生物が、今は道東沖まで北上しています。温暖化が海の生物に与える影響を明らかにするため、小さな生物を対象に研究を続けています。



委員の  
嶋田です

地方独立行政法人北海道立総合研究機構釧路水産試験場  
調査研究部長

水産資源の管理増殖のほか、赤潮生物のモニタリングなどに取り組んでいます。

近年は海洋環境の変動が大きくなり、サケマス類を取り巻く状況は厳しさを増しつつあるかと思えます。カラフトマスの主産地であった斜里・ウトロにおいても例外でも漁獲量が激減するなど、同地区においても例外ではないかと思っています。知床半島のサケマス資源を将来にわたって維持できるような微力ながら、取り組んでいきたいと思っています。



委員の  
藤原です

地方独立行政法人北海道立総合研究機構さけ・ます内水面水産試験場  
さけ・ます資源部長

北海道のサケマス類の資源維持と安定化に向け、研究に取り組んでいます。

会議の内容をもっと知りたい方はこちら



知床データセンター

<https://shiretokodata-center.env.go.jp/>

これまでのモニタリング結果や、会合での資料なども  
ご覧いただくことができます。

### ◆お問い合わせ先◆

北海道環境生活部自然環境局自然環境課  
〒060-8588  
札幌市中央区北3条西6丁目  
電話 011-231-4111 (代)  
内線 24-357

＜令和6年（2024年）5月発行＞

## ～知床海域の今～

2023年の夏は全国的に猛暑となりましたが、知床半島周辺も例外ではなく、8月の月平均気温はウトロと羅臼で共に観測史上最高値を記録しました。海の表面水温も夏～秋季にかけて例年よりも3～4℃以上高い状態が3ヶ月ほど続いたため、これまでになかったこうした「海洋熱波」が沿岸の生態系にどのような影響を与えたのかを、今後も注意深く監視してゆく必要があります。

(海域WG座長：山村織生)